

島根原子力発電所周辺空間放射線量率 (県内モニタリングポスト)の測定結果について

鳥取県内の弓浜半島では、12カ所(固定局2、可搬型10)【図1-1】において、空間放射線量率を連続監視する装置で計測し、放射性物質が周辺環境に影響を与えていないかどうかを確認しています。

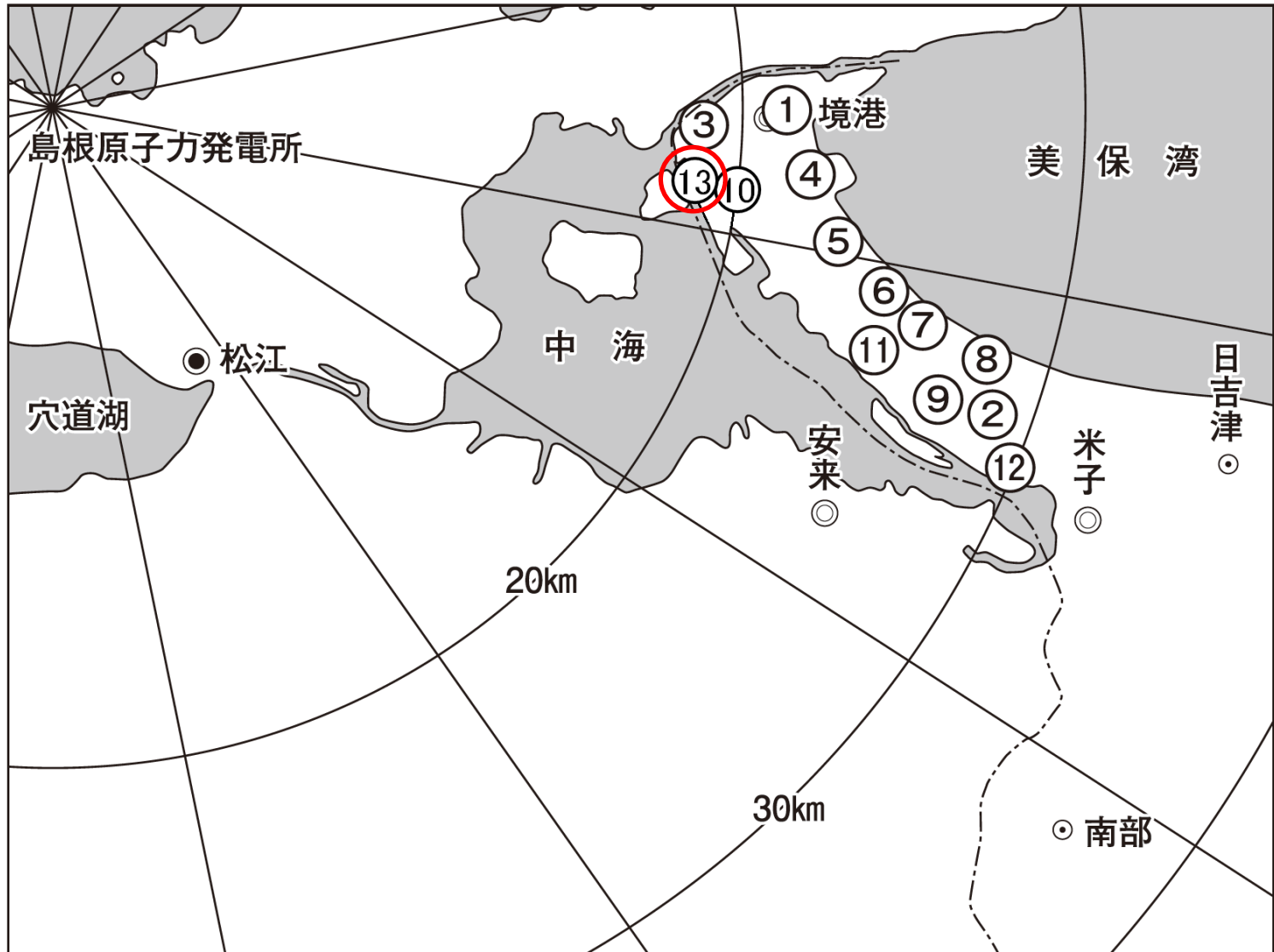


固定局 (境港局)



可搬型 (外江公民館)

【図1-1 調査地点】



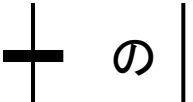

※平成30年度からは、**⑬境港市渡町(光洋の里)**においても緊急時に備え、可搬型モニタリングポストを設置し、稼働・通信訓練を実施する。

<測定地点>


	測定地点	種類
①	境港市上道町(境港局)	固定型
②	米子市河崎(米子局)	固定型
③	境港市外江町(外江公民館)	可搬型
④	境港市竹内町(余子公民館)	可搬型
⑤	境港市財ノ木町(中浜公民館)	可搬型
⑥	米子市大篠津町(大篠津公民館)	可搬型
⑦	米子市和田町(和田公民館)	可搬型
⑧	米子市夜見町(夜見公民館)	可搬型
⑨	米子市彦名町(彦名公民館)	可搬型
⑩	境港市渡町(渡駐在所)	可搬型
⑪	米子市大崎(大崎駐在所)	可搬型
⑫	米子市旗ヶ崎(旗ヶ崎駐在所)	可搬型
⑬	境港市渡町(光洋の里)	可搬型(30年度～)

鳥取県が、平成28年度までの調査結果を
検討・評価したところ、島根原子力発電所による
環境への影響は認められませんでした。

平成29年度(12月までの速報値)についても、
昨年度までと同程度の数値を示しています。

次の図中  の  (縦線)は、1時間値の最低値から最高値までを表しています。

 (太い横線)は、1時間値の平均値を表しています。

 は、過去の年度を表しています。

※12月～においての最高値に関しては、降水等に伴う自然放射線の影響と推察

放射線量率の異常値の基準は？

220ナノグレイ/時(nG/h)を超えると、県は、原因を調査します。この値は、中国電力との安全協定通報基準値となっています。この値は、国が定めた通報基準値5,000nG/hよりも低い数値であり、人体に影響を与えるレベルより、はるかに低い値です。

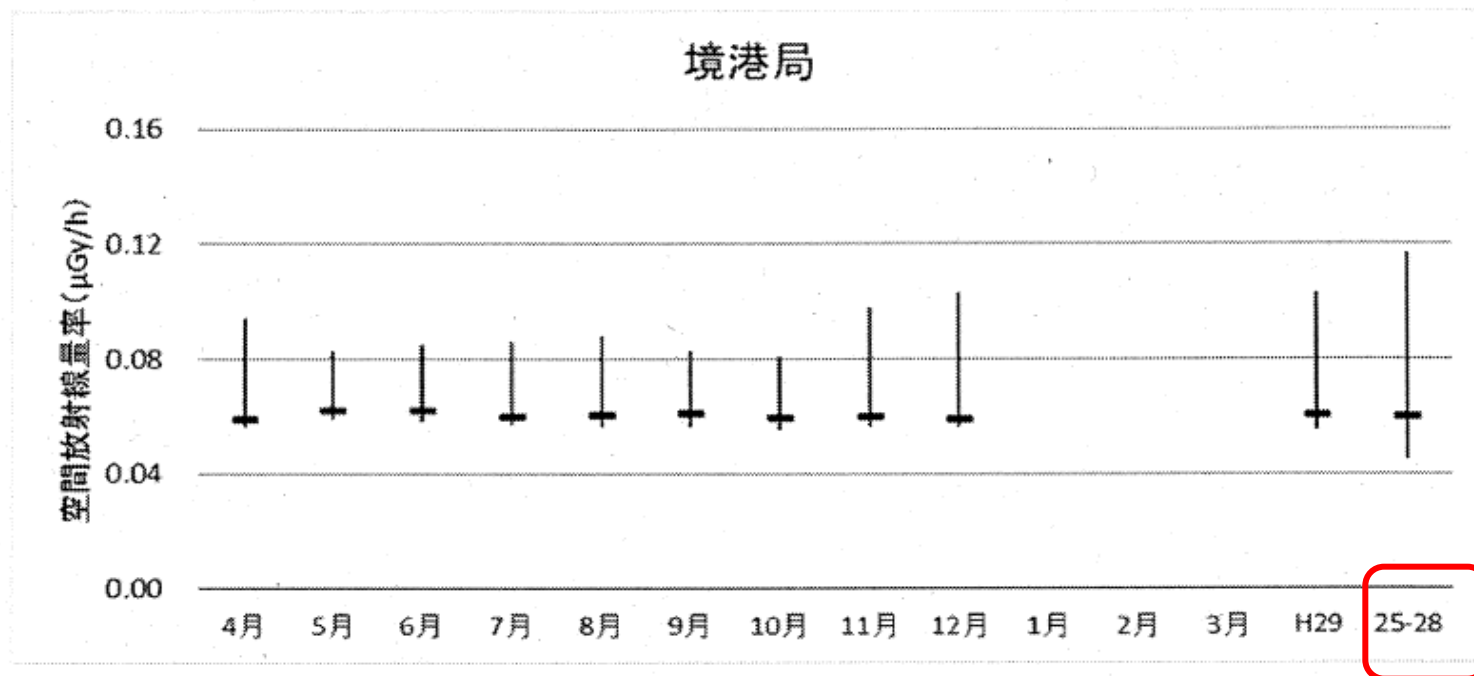
220ナノグレイ/時(nG/h) = (次の表での値では、0.22μG/hとなります)。

平成29年度環境放射線等測定結果（速報）

【空間放射線（線量率）】

いずれの地点においても、過去の測定結果と同レベルであった。

【固定型モニタリングポスト】



凡例



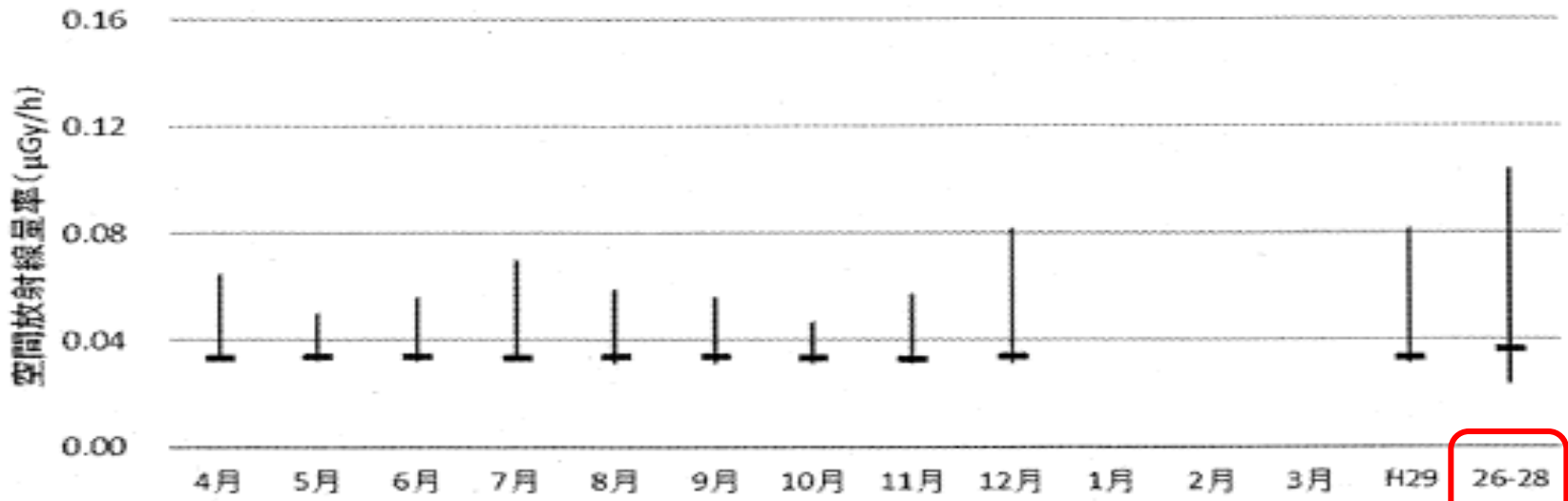
1時間値の最高値

1時間値の平均値

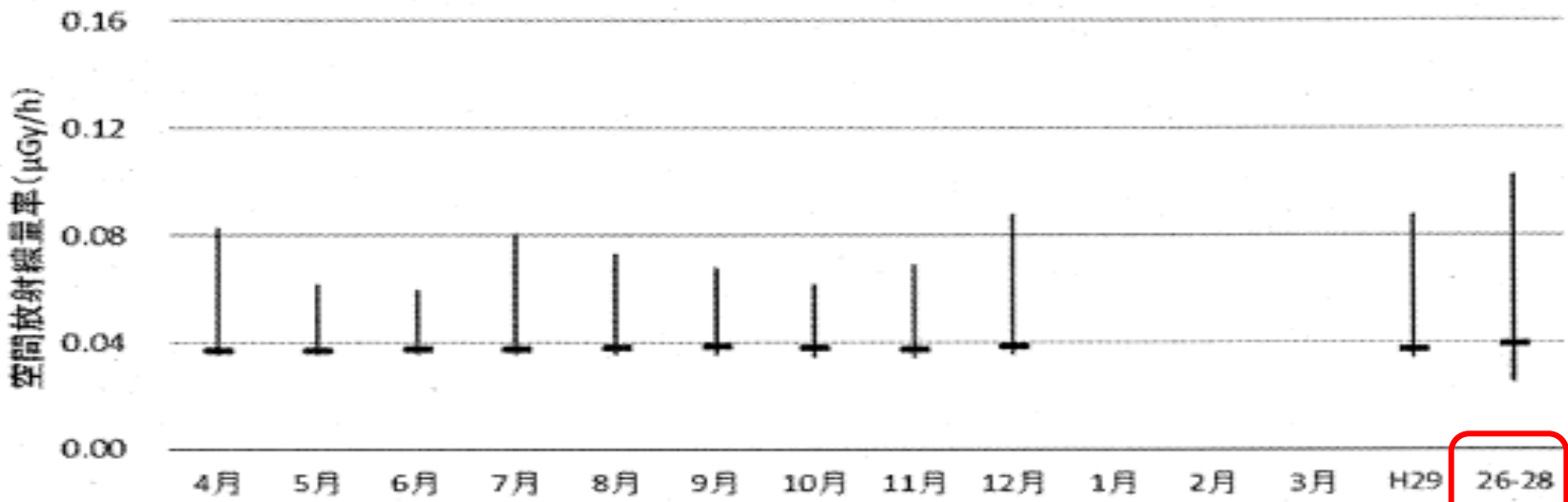
1時間値の最低値

注：「25～28」は、H25～28年度の結果を示す。

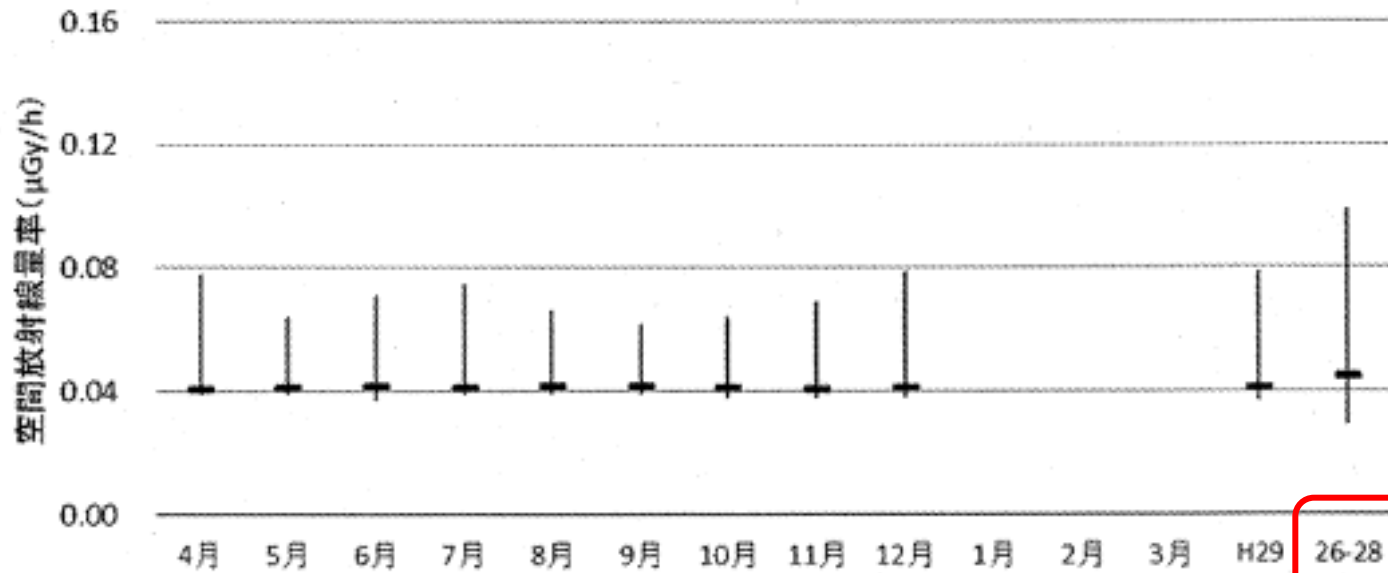
外江公民館



余子公民館



中浜公民館



凡例



1時間値の最高値

1時間値の平均値

1時間値の最低値

注：「26～28」は、H26～28年度の結果を示す。(可搬型モニタリングポストはH26年度から測定実施)

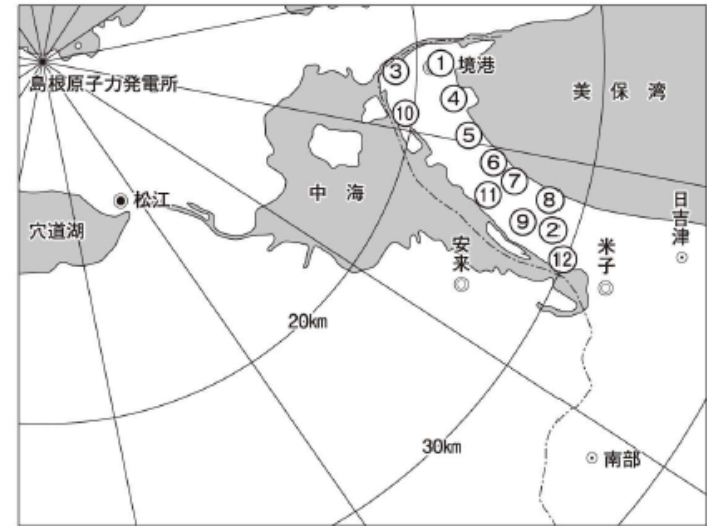
可搬型モニタリングポストの稼働・通信訓練の結果について

緊急時に備え、3地点において可搬型モニタリングポストの連続稼働・通信訓練を実施し、年間を通じて安定した稼働状態であることを確認した。

測定地点

項目	測定地点	
線量率	境港市渡町（渡駐在所）	⑩
	米子市大崎（大崎駐在所）	⑪
	米子市旗ヶ崎（旗ヶ崎交番）	⑫

※平成30年度からは、**⑬境港市渡町（光洋の里）**においても緊急時に備え、可搬型モニタリングポストを設置し、稼働・通信訓練を実施する。



※①～⑨は平常時モニタリング地点

【測定結果】

(単位： $\mu\text{Gy/h}$)

地点	区分	H28 年度	(参考) H26～27 年度
渡駐在所	最高値	0.102	0.096
	最低値	0.042	0.048
	平均値	0.058	0.061
大崎駐在所	最高値	0.122	0.123
	最低値	0.041	0.049
	平均値	0.062	0.062
旗ヶ崎交番	最高値	0.097	0.116
	最低値	0.048	0.052
	平均値	0.060	0.061